

# 株式会社協同（埼玉県）

～ 特許技術の汎用性を活かした事業展開 ～

## 1. 特許の自社活用による事業拡大

株式会社協同は、昭和45年、機械部品の製造・販売・組立てを主事業として設立された。守屋勇治会長（当時社長）は、発明好き、研究開発熱心でもあり、いろいろなアイデアを商品化し、特許も取得して、事業は円滑に行き、主事業以外の分野でも好調な収益を上げていた。

しかし、大企業の下請けのままでは大企業の景気に左右されてしまうことや、後継者を育成する中で後継者が展開しやすい事業へと移行する必要性から転機と考え、社屋を東京都北区赤羽から埼玉県入間市に移し、これまで手掛けてきた事業のうち、化成事業を柱に方向転換した。

## 2. 災害被害者を救うために

平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災では多くの人が亡くなり、多くのものが失われ、震災後は水道、電気、ガスなどのライフラインがすべてストップした中で、被災者にとって悲惨な状況が長く続き、全国の国民も心を痛めた。

中島社長も、何か役に立てることはないかと考えて、着想したのが発熱材の技術であり、10年の歳月を経て「モーリアンヒートパック」という商品に結実した。この技術は、アルミニウムの粉末と生石灰を一定割合で混ぜたものに水を加えると、水和反応により短時間で約100度に達し、90度の温度を15～20分間維持でき、しかも、従来の生石灰に比べて使用する量は10分の1で済むというものである。

平成12年1月には、日本、米国、欧州、韓国に出願し、それぞれの国で特許を取得した。その後も改良技術、関連技術も次々に特許出願している。

## 3. インパクトのある視覚効果と優れた汎用性

平成16年10月に起きた新潟中越地震の時には、早速、支援物資として本製品を送り、それによって被災者に温かい食事を提供することができた。

加えて、この特許技術は汎用性に優れており、いろんな分野での応用が期待できる。例えば、旅館・ホテルにおける料理の演出として、器に水を注ぎ入ると突然器から湯気が勢いよく吹き出し、しばらくして器のふたを取ると、中には蒸されて熱々になった料理が入っているといったものがある。冷たいものを熱々にすることや蒸すだけでなく、見て楽しいといった視覚効果も利用されている。現在も、このように旅館・ホテルのほか、駅弁などの外食産業で、また、非常用・携帯用食料と組み合わせた自治体などの備蓄食糧やアウトドアショップにおける固形燃料の代替品として利用されている。

今後の展望は、製造ラインを増やし、自社が保有する特許技術で独自商品を作り、

これを自社グループで販売し、独自ブランドを構築していくことである。

### 【保有権利に基づく製品例】



「モーリアンヒートパック」



備蓄用「モーリアンヒートパック」

### <会社概要>

名称及び代表者名	株式会社協同 代表取締役社長 中島 京子
本社所在地	埼玉県入間市下藤沢1097-1
創業	1970（昭和45）年
資本金	5,000万円
従業員数	7名
主要製品	食品加熱加温剤、潜熱蓄熱剤、化粧品、健康飲料水
電話	04-2965-4221
URL	http://www.morians.co.jp/